

**2023年度第2四半期決算
および
2023年度通期業績予想
(決算補足説明資料)**

2023年10月27日

三谷産業株式会社

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。したがって、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行ってください。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

COPYRIGHT 2023© MITANI SANGYO CO., LTD.

2023年10月27日(金)

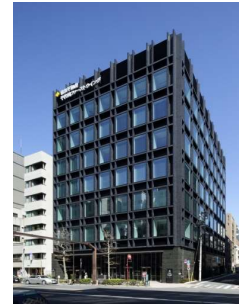
2023年度第2四半期決算および2023年度通期業績予想
決算補足説明資料

会社概要

社名	三谷産業株式会社
創業	1928（昭和3）年2月11日
設立	1949（昭和24）年8月11日
代表者	代表取締役社長 三谷忠照
本社所在地	金沢本社：石川県金沢市 / 東京本社：東京都千代田区
資本金	48億8百万円
従業員数	連結：3,606名 / 単体：595名
上場証券取引所	東証スタンダード・名証プレミア（証券コード：8285）
連結子会社	21社（国内：11社 / 海外：10社）
発行可能株式総数	220,000,000株
発行済株式総数	61,772,500株
単元株式数	100株
株主数	19,279名
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社



金沢本社



東京本社
(2023年10月20日現在)

首都圏・北陸・ベトナムで6つの事業領域を展開 事業間のシナジー創出や新たな事業創出にも取り組む

商社機能とメーカー機能を活かした複合解決力で、お客さまとともに課題を解決。新たなマーケットを開拓します。

化学品

安心・安全なエネルギーの安定供給を担い、限りある資源を有効活用できる仕組みを提案します。

エネルギー

“良品しかつけない製造工程”を確立。高精度な自動車部品の一貫生産体制を構築します。

樹脂・
エレクトロニクス

お客さまにとって豊かで快適な住空間を提案し、上質な住まいづくりに貢献します。

住宅設備機器

次世代のデジタルソリューション・サービスを提供し、お客さまとともに経営課題を解決します。

情報システム

企画・設計・施工力を活かして、お客さまにとって心地よく、環境にやさしい快適空間を提供します。

空調設備工事

その他の事業

- ・グループ会社に対する横断的な業務支援
- ・ベンチャー企業への出資、経営サポート
- ・新規事業の立案、実行

2023年度第2四半期 連結P/L

売上高および親会社株主に帰属する四半期純利益については、四半期連結決算開示以来、第2四半期連結累計期間としては過去最高

- ✓ 売上高：樹脂・エレクトロニクス、住宅設備機器および情報システムの増加により、増加
- ✓ 営業利益：化学品を除く5つの事業セグメントにおける増加により、増加
- ✓ 経常利益：営業利益の増加を主要因に、増加
- ✓ 親会社株主に帰属する四半期純利益：営業利益の増加を主要因に、増加
- ✓ 親会社株主に係る四半期包括利益：その他有価証券評価差額金の増加により、増加

(単位：百万円)

	FY22 2Q	FY23 2Q	増減額	前年同期比	FY23 見通し	進捗率
売上高	43,545	45,904	+ 2,359	+ 5.4%	92,000	49.9%
売上総利益 (利益率)	7,634 17.5%	8,828 19.2%	+ 1,194 + 1.7%	+ 15.6% -	— —	— —
営業利益	▲ 42	804	+ 847	—	1,050	76.6%
経常利益	351	1,182	+ 831	+ 236.6%	1,550	76.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	96	873	+ 777	+ 809.0%	1,000	87.3%
親会社株主に係る 四半期包括利益	187	2,920	+ 2,733	+ 1460.3%		

COPYRIGHT 2023© MITANI SANGYO CO., LTD.

3

<連結業績>

売上高:459億04百万円(前年同期比23億59百万円増 5.4%増)

営業利益:8億4百万円(前年同期比8億47百万円増 前年同期の営業利益は▲42百万円)

経常利益:11億82百万円(前年同期比8億31百万円増 236.6%増)

親会社株主に帰属する四半期純利益:8億73百万円(前年同期比7億77百万円増 809.0%増)

2023年度第2四半期 セグメント別売上高

樹脂・エレクトロニクス、住宅設備機器、情報システムの3セグメントが増加

- ✓ 化学品：甲信越地区およびベトナムにおいての顧客の稼働が減少したことから、減少
- ✓ 空調設備工事：北陸地域の前年同期における大型新築工事の進捗が大きかったことから、減少
- ✓ 情報システム：北陸地区および首都圏ともに顧客への納入が順調であったことから、増加
- ✓ 樹脂・エレクトロニクス：車載向け樹脂成形品の需要が回復したことに加えて、車載向け以外の新規案件の製造および納入を本格的に開始したことから、増加
- ✓ エネルギー：石油製品の一部顧客の稼働低下、民生用LPガスの需要が減少したことから、減少
- ✓ 住宅設備機器：首都圏において複数の大型案件の進捗があったことから、増加

(単位：百万円)

	FY22 2Q	FY23 2Q	増減額	前年同期比
化学品	18,582	18,018	▲ 564	▲ 3.0%
空調設備工事	6,325	6,298	▲ 27	▲ 0.4%
情報システム	4,103	4,585	+ 482	+ 11.8%
樹脂・エレクトロニクス	4,810	6,068	+ 1,258	+ 26.2%
エネルギー	3,412	3,203	▲ 208	▲ 6.1%
住宅設備機器	6,256	7,501	+ 1,244	+ 19.9%
その他	1,050	1,189	+ 138	+ 13.2%

COPYRIGHT 2023© MITANI SANGYO CO., LTD.

4

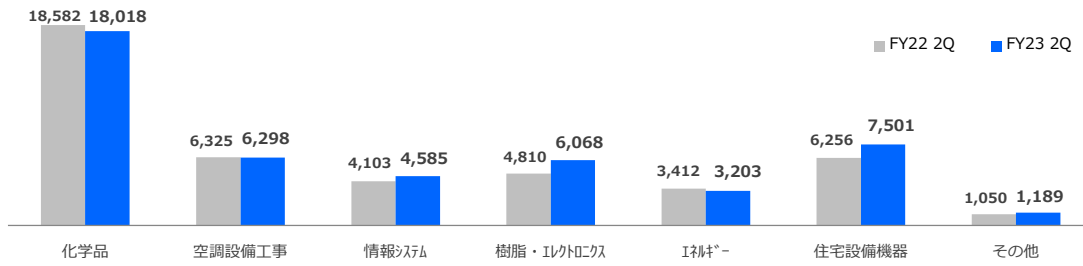
<セグメント別の売上高増減額>

- 化学品： ▲5億64百万円
- 空調設備工事： ▲27百万円
- 情報システム： +4億82百万円
- 樹脂・エレクトロニクス： +12億58百万円
- エネルギー： ▲2億8百万円
- 住宅設備機器： +12億44百万円

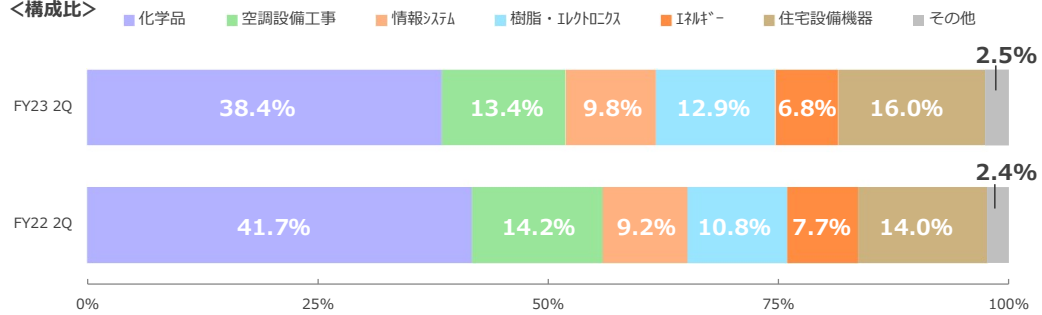
2023年度第2四半期 セグメント別売上高

<セグメント別売上高>

(単位：百万円)



<構成比>



※セグメント間の内部売上高を含んでおります

<セグメント別の売上高構成比>

6事業セグメントにおける売上構成比に顕著な変動はありません。

2023年度第2四半期 セグメント別営業利益

化学品を除く5つの事業セグメントが増加

- ✓ 化学品：甲信越地区およびベトナムにおいての顧客の稼働が減少したことから、減少
- ✓ 空調設備工事：リニューアル工事において付加価値の高い提案が実施できたことから、増加
- ✓ 情報システム：北陸地区および首都圏ともに顧客への納入が順調であったため、増加
- ✓ 樹脂・エレクトロニクス：売上高の増加に加えて、工場稼働率の回復および生産効率化の推進により、増加
- ✓ エネルギー：単位当たり利益が改善したことから、増加
- ✓ 住宅設備機器：新規ブランドのプロモーション活動に必要な費用計上が継続しているものの、損失額は前年同期に比べ減少

(単位：百万円)

	FY22 2Q	FY23 2Q	増減額	前年同期比
化学品	652	287	▲ 365	▲ 56.0%
空調設備工事	283	345	+ 61	+ 21.8%
情報システム	323	490	+ 167	+ 51.9%
樹脂・エレクトロニクス	▲ 182	643	+ 826	-
エネルギー	20	65	+ 45	+ 224.5%
住宅設備機器	▲ 329	▲ 134	+ 195	-
その他	105	83	▲ 22	▲ 20.8%

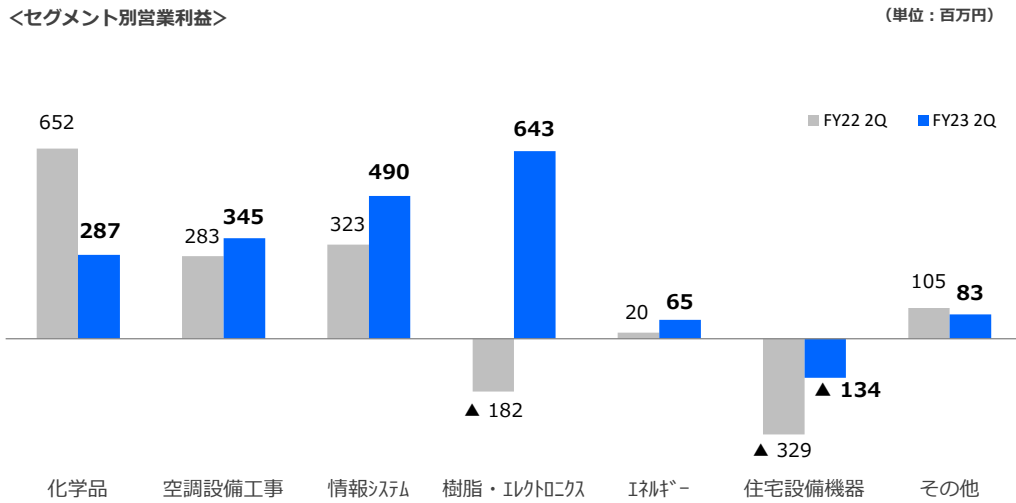
COPYRIGHT 2023© MITANI SANGYO CO., LTD.

6

<セグメント別の営業利益増減額>

化学品：	▲3億65百万円
空調設備工事：	+61百万円
情報システム：	+1億67百万円
樹脂・エレクトロニクス：	+8億26百万円
エネルギー：	+45百万円
住宅設備機器：	+1億95百万円

2023年度第2四半期 セグメント別営業利益



※セグメント間の内部売上高を含んでおります

COPYRIGHT 2023© MITANI SANGYO CO., LTD.

7

<セグメント別の状況>

〔化学品〕 減収・減益

国内における化成品販売については、甲信越地区において顧客の稼働が減少したことから、売上高は減少しました。

医薬品原薬については、輸入品の顧客需要が好調であったことから、売上高は増加しました。

機能性素材の受託製造については、顧客の稼働が増加したことから、売上高は増加しました。

環境ビジネスについては、触媒原料の取扱量が減少したことから、売上高は減少しました。

ベトナムにおける化成品販売については、ベトナム北部および南部において顧客の稼働が減少したことにより、売上高は減少しました。

以上により、全体の売上高は、顧客の稼働が減少したことを主要因に前年同期比3.0%減の180億18百万円となり、営業利益は、前年同期比56.0%減の2億87百万円となりました。

〔空調設備工事〕 減収・増益

受注高は、北陸地区において複数の大型新築工事およびリニューアル工事を受注できたものの、首都圏において前年同期に大型新築工事の受注があったことから、前年同期比7.0%減の81億12百万円となりました。

売上高は、ベトナムにおける設計・積算業務のうちBIM業務の受託が好調であったものの、北陸地区において前年同期における大型新築工事の進捗が大きかったことから、前年同期比0.4%減の62億98百万円となりました。一方、営業利益は、リニューアル工事において付加価値の高い提案が実施できたことから、前年同期比21.8%増の3億45百万円となりました。

〔情報システム〕 増収・増益

受注高は、北陸地区において公共機関向け案件および基幹システム等の更新案件の受注があったことから、前年同期比8.1%増の53億88百万円となりました。

売上高は、北陸地区および首都圏での顧客への納入が順調であったことから、前年同期比11.8%増の45億85百万円となり、営業利益は、前年同期比51.9%増の4億90百万円となりました。

〔樹脂・エレクトロニクス〕 増収・増益

売上高は、車載向け樹脂成形品の需要が回復したことに加えて、車載向け樹脂成形品以外の新規案件の製造および納入を本格的に開始したことから、前年同期比26.2%増の60億68百万円となりました。営業利益は、売上高の増加に加えて、工場稼働率の回復および生産効率化の推進により6億43百万円となりました(前年同期の営業損失は1億82百万円)。

〔エネルギー〕 減収・増益

石油製品については、販売価格は、堅調に推移しました。販売数量は、一部顧客の稼働が低下したこと等により、減少しました。

民生用LPガスについては、販売価格は、前年同期並みとなりました。販売数量は、新規顧客の獲得が進んだものの、業務用や家庭用での需要が減少したことにより、前年同期を下回りました。

以上により、全体の売上高は、前年同期比6.1%減の32億3百万円となりました。一方で、単位当たり利益が改善したことから、営業利益は、前年同期比224.5%増の65百万円となりました。

〔住宅設備機器〕 増収・増益

受注高は、首都圏および北陸において受注活動が順調であったことから、前年同期比0.6%増の67億59百万円となりました。

売上高は、首都圏において複数の大型案件の進捗があったことから、前年同期比19.9%増の75億1百万円となりました。また、営業損失は、新規ブランドのプロモーション活動に必要な費用計上が継続しており1億34百万円となったものの、損失額は前年同期に比べ減少しました(前年同期の営業損失は3億29百万円)。

2023年度第2四半期 連結B/S

総資産・純資産ともに増加。自己資本比率は前期から0.2ポイント上がり、48.3%

- ✓ 流動資産：完成工事未収入金+7億54百万円、受取手形及び売掛金+6億36百万円、電子記録債権+4億5百万円を主要因に増加
- ✓ 固定資産：投資有価証券+25億74百万円を主要因に増加
- ✓ 流動負債：短期借入金+6億47百万円、支払手形及び買掛金+5億50百万円、電子記録債務+5億18百万円を主要因に増加
- ✓ 固定負債：繰延税金負債+7億14百万円、長期借入金▲5億87百万円を主要因に増加
- ✓ 株主資本：利益剰余金+5億96百万円を主要因に増加
- ✓ 純資産：上記株主資本、その他有価証券評価差額金+16億70百万円を主要因に増加

<2023 2Q>

(単位：百万円)

	FY22	FY23 2Q	増減額		
流動資産	42,296	44,664	+ 2,368	流動資産 44,664	流動負債 35,982
固定資産	44,013	46,649	+ 2,636		
資産合計	86,309	91,313	+ 5,004		
流動負債	33,842	35,982	+ 2,140	固定資産 46,649	純資産 44,264
固定負債	10,853	11,066	+ 212		
純資産	41,612	44,264	+ 2,651		

COPYRIGHT 2023©MITANI SANGYO CO., LTD.

8

<連結財政状態>

総資産残高は、913億13百万円となり、前連結会計年度末に比べ50億4百万円増加しました。主な要因は、受取手形及び売掛金6億36百万円の増加、電子記録債権4億5百万円の増加、完成工事未収入金7億54百万円の増加、投資有価証券25億74百万円の増加であります。

負債残高は、470億49百万円となり、前連結会計年度末に比べ23億53百万円増加しました。主な要因は、支払手形及び買掛金5億50百万円の増加、電子記録債務5億18百万円の増加、短期借入金6億47百万円の増加、長期借入金5億87百万円の減少、固定負債のその他に含まれる繰延税金負債7億14百万円の増加であります。

純資産残高は、442億64百万円となり、前連結会計年度末に比べ26億51百万円増加しました。

これらの結果、連結ベースの自己資本比率は、前連結会計年度末の48.1%から48.3%となりました。

。

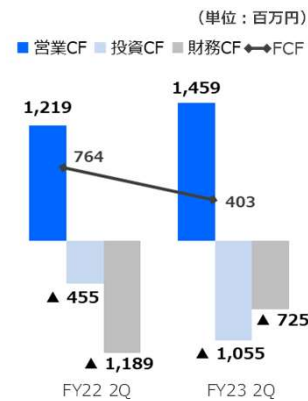
2023年度第2四半期 連結C/F

営業CFがプラス、投資CFがマイナス、財務CFがマイナス、フリーCFはプラス。

- ✓ 営業CF：税金等調整前四半期純利益、減価償却費、仕入債務の増加を主要因に、14億59百万円
- ✓ 投資CF：有形固定資産の取得による支出を主要因に、▲10億55百万円
- ✓ 財務CF：借入金の返済・配当金支払を主要因に、▲7億25百万円
- ✓ フリーCF：前年同期比3億60百万円減少の4億3百万円

	FY22 2Q	FY23 2Q	増減額
営業CF	1,219	1,459	+ 239
投資CF	▲ 455	▲ 1,055	▲ 600
財務CF	▲ 1,189	▲ 725	+ 464
フリーCF	764	403	▲ 360

※フリーCF = 営業CF + 投資CF



<連結キャッシュ・フロー>

現金及び現金同等物の残高は64億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億51百万円の減少となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは14億59百万円の収入となりました。

主なプラス要因は、税金等調整前四半期純利益13億97百万円、減価償却費10億19百万円、仕入債務の増加額7億37百万円であり、主なマイナス要因は、売上債権の増加額16億54百万円、法人税等の支払額4億16百万円であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは10億55百万円の支出となりました。

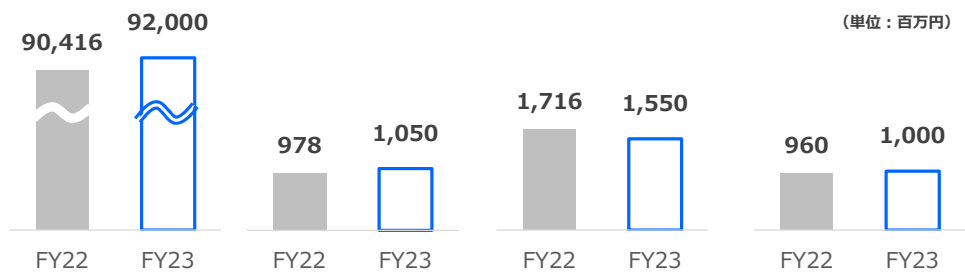
主な要因は、有形固定資産の取得による支出5億97百万円であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは7億25百万円の支出となりました。

主な要因は、短期及び長期の借入金の純減額が合わせて1億89百万円、配当金の支払額2億77百万円であります。

2023年度 連結業績予想（本年4月公表の業績予想から変更なし）

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
920億円	10.5億円	15.5億円	10億円
前期比 + 15億84百万円	+ 72百万円	▲ 1億66百万円	+ 40百万円



COPYRIGHT 2023© MITANI SANGYO CO., LTD.

10

<通期連結業績見通し>

通期連結業績見通しについては、本年4月28日に公表した業績予想から変更はありません。

売上高は前期比15億84百万円増加、1.8%増の920億円

営業利益は前期比72百万円増加、7.3%増の10.5億円

経常利益は前期比1億66百万円減少、9.7%減の15.5億円

親会社株主に帰属する当期純利益は前期比40百万円増加、4.1%増の10億円

配当方針

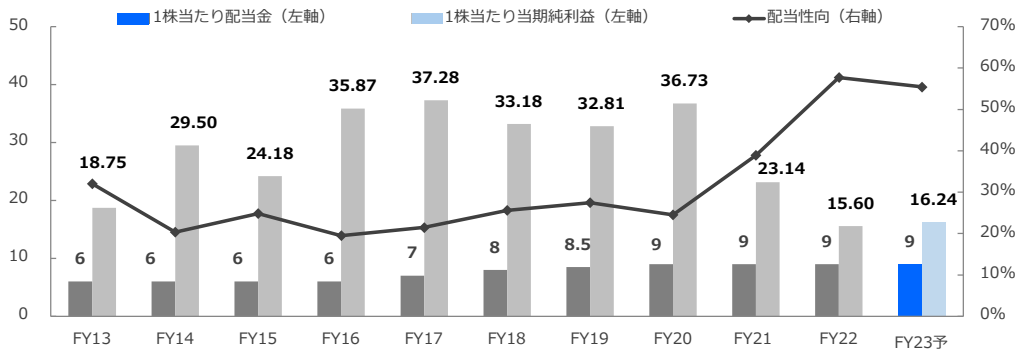
継続的な安定配当を実施するとともに、企業体質の強化と将来の事業拡大に備えるため、必要な内部留保を確保していくことを基本方針としております。内部留保資金については、将来の事業拡大に伴う運転資金、既存事業の拡大および新規事業の開発に伴う投資資金として有効活用していきたいと考えております。

この基本方針のもと、将来の事業拡大に向けた設備投資、オリジナル製品の開発、ベンチャー企業への投資・連携・協業などに取り組みました。

現状の利益水準、中期経営計画の進捗状況等を踏まえ総合的に検討しました結果、**中間配当金を1株当たり4円50銭としました。**

2023年度の1株当たり配当金は年間9円（中間4円50銭、期末4円50銭）を計画しています。

(単位：円)



COPYRIGHT 2023©MITANI SANGYO CO., LTD.

11

<配当方針>

現状の利益水準、中期経営計画の進捗状況等を踏まえ総合的に検討しました結果、中間配当金を1株当たり4円50銭としました。2023年度の1株当たり配当金は年間9円（中間4円50銭、期末4円50銭）を計画しています。



COPYRIGHT 2023© MITANI SANGYO CO., LTD.